



組子体験会

奥沢 奈恵 (北見支部)

令和6年7月20日に女性委員会道東Bブロックと北見支部女性部会合同で「組子体験会」を開催しました。きっかけは、技能グランプリ建具部門で銀賞を受賞された建具職人さんと縁があり、組子キッドを用いて体験させていただけるとお声があったことです。

ものづくりが大好きな私たちは、日本の伝統的な技術に触れ、その体験を周りの人たちにも伝えたい。という思いで勉強会を企画しました。

組子を教えてくれるのは、北見市内の有限会社木下建具工芸の木下会長と代表取締役木下保さんです。受賞した作品や行燈、壁飾りなどいくつもの作品を見ながら、組子作りをしました。



組子は細い木片を釘など使わずに組み合わせて幾何学模様のオブジェクトを作る装飾技法で、花の文様が多くあります。麻の葉や竜胆、桜など日本に馴染みあるものが代表的です。今回の体験では「八重麻」という文様のコースターを作りました。枠の部分と模様になる部分、一つ一つの木片を組み合わせていきます。木の種類で濃い茶から薄い茶、緑や赤紫と天然木

とは思えないきれいな色のものがあり、自分の好きな組み合わせで作させていただきました。

木片を順番に組み込んでいくのですが、薄くて細かいものをはめ込むのに、指先の力がかなり必要。力任せにすると割れてしまうことも。ぎゅっと押してすこんと入った時の感覚が心地良いものでした。完成した作品は、同じ文様でも色の違いで個性が現れていて、とてもステキで大満足なものとなりました。

今回の体験を通して、組子の奥深さを知りました。また、和式建築だけでなく、色使いやデザインを工夫することにより、洋式建築にも合わせられることを知りました。生活のどこかに組子や日本の伝統を散りばめることで風情を感じ、心が豊かになります。

身近に貴重な体験ができたことに感謝し、これからも楽しく活動をしていきます。

住教育出張講座 (石狩翔陽高校)

児玉 恵美 (札幌支部)

コロナ禍もある程度の落ち着きを取り戻す中で、女性委員会の活動の1つ、「建築士による住教育出張講座」が再開されました。私は今年初めて、事前研修を経て実習のお手伝いをさせて頂きました。

講座は約2時間の中で、住環境・空間の役割・構造体等に関する講義の後、「間取りキット」を使って生徒達が将来の自分の生活を想像し一人暮らしの住宅を計画します。「間取りキット」には、街の環境がわかる付近見取り図やバルコニー付きマンション住居の

スケルトン平面図(1/100)そして家具等のパーツシートが入っています。

最初に、街の中の3か所のマンションから住みたい場所と階を決めるのですが、周辺環境(駅・コンビニ・病院・図書館等)や立地条件(眺望・便利さ・防災)に対して生徒達は意外にも優先順位がはっきりしていて、ここから既にそれぞれの個性が表れてきました。

次に、何歳? どんな仕事をしている? と将来の自分の姿を想像してから、いよいよ計画が始まります。《どんな時間を大切にしたいか》をグループの皆とシェアする事で、自然にコンセプトが決まっていくようでした。作業は空間の役割分類(休養・余暇・作業・生理衛生)を考えながらゾーニングしていきます。これがなかなか難しそうで、キットの家具を図面に置いたりしながら少しづつイメージが形になっていきました。「囲われるのが好きだからこの字型のキッチンを中央に設置したい。」「リビングとダイニングの間は大開口の引き戸にしたい。」「リビングが生活の中心なので他の部屋はコンパクトにしたい。」等 生徒達からは自身の好きな事や希望はどんどん出てきます。一つ一つ考えていった空間が、こちらのほんの少しのサポートで全体が繋がった時、生徒達は集中力が増した様子で作業はグッと加速! 最後は平面図をスライドに映して発表してもらうのですが、自分の生活や空間のこだわりを全員の前でしっかり伝える姿は頼もしいものでした。

2時間で約44m²の1人暮らしの空間を形にできる『間取りキット』この教材をたくさんの生徒達が使って、住環境の基礎知識とこれからの中路で《知識を持てば、自ら豊かな暮らしは創れる》という思考をもてるようサポートをしていきたいと思います。

高校生と関わる時間は新鮮で感動があり、自身を客観視できる機会にもなりました。ぜひこの文章を読んで下さっている建築士の方にも体験をお勧めしたいと思います。